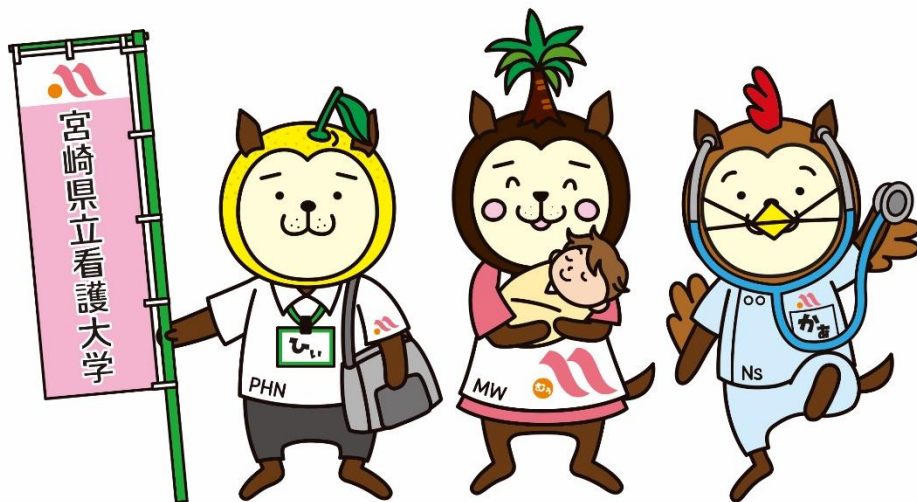


宮崎県立看護大学 研究シーズ集

2026年度版



保健師 ひいくん

助産師 むらちゃん

看護師 かあくん

皆様と本学教員の素晴らしい出会いを期待して

学長 長鶴美佐子

一人の人間が行う研究や地域貢献には限界があり、その成果を出すまでには時間や手間も要します。しかし、類似する内容や関連する内容に取り組む研究者や地域貢献を行う人々との出会いで、その研究や地域貢献活動は深まりと広がりができ、大きく発展していきます。

このような考えに立ち、本研究シーズ集は、本学の教員の研究・地域貢献活動を紹介し、類似する活動を行う人々と本学教員を結びつけるために作成したものです。

まず、この研究シーズ集をめくり、本学の教員がどのような研究・地域貢献活動を行っているかご覧いただければと思います。そして、興味を持つ研究・地域貢献活動がありましたら、ぜひその教員にアクセスしてください。結果として、本学教員と連携・協働する研究・地域貢献活動へと発展することができれば、これほど喜ばしいことはありません。

皆様と本学の教員とのすばらしい出会いがあることを願っております。

宮崎県立看護大学 研究シーズ集とは

「宮崎県立看護大学 研究シーズ集」は、各研究者が研究テーマ、研究の概要およびその成果について、出前講義や連携した調査研究が可能なテーマなどをコンパクトにまとめ、企業等の産業界や医療機関、学外の研究者の皆様にご紹介するものです。

シーズは分野ごとに分かれており、お探しの分野についてPDFの一覧でご覧いただけます。また、それぞれのシーズの教員名から、プロフィールページへリンクできます。

出前講義の依頼や委託研究および共同研究のテーマ探しなどにご活用ください。

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2026年度版 目次

| 分野 | 領域 | 職位 | 氏名 | 研究テーマ | 頁 |
|--------|---------|--------|-----------|--|----------------------|
| 普遍分野 | 自然界と看護 | 准教授 | 小河一敏 | 看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築 | 1 |
| | 人間社会と看護 | 教授 | 岩江荘介 | 研究倫理審査委員会の審査の質向上について(事務局スタッフへの教育など) | 2 |
| | | 教授 | 串間敦郎 | 高齢者の介護予防運動の開発と普及 | 3 |
| | 個の尊重と看護 | 教授 | 川北直子 | 多読学習の効果、看護学生と異文化理解 | 4 |
| | | 講師 | ヘンスリージョール | 国際コミュニケーションツールを備えるため | 5 |
| | 文化と看護 | 教授 | 大館真晴 | 日本上代文学作品の文献学的研究 | 6 |
| | | 准教授 | 長坂 猛 | 睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力 | 7 |
| | 専門基礎分野 | 看護人間学Ⅰ | 教授 | 川越靖之 | 宮崎の産婦人科医療及び看護の発展を目指す |
| 教授 | | | 田中美智子 | 健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究 | 9 |
| 准教授 | | | 田端佑規 | 食品由来脂質成分GGAによる健康維持と疾病予防に関する研究 | 10 |
| 助教 | | | 野末明希 | 1. 睡眠と日常生活の質改善プログラムの構築 2. 遺伝性のがんをもつ人とその家族への看護支援 | 11 |
| 看護人間学Ⅱ | | 講師 | 加藤沙弥佳 | 看護学生の職業コミットメントに関する研究 | 12 |
| 看護人間学Ⅲ | | 教授 | 中尾裕之 | 特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化～自治体への支援のために～ | 13 |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 准教授 | 邊木園幸 | 高齢者および障害者入所施設における感染対策に関する研究 | 14 |
| | | 准教授 | 毛利聖子 | 看護理論の修得過程/人権・倫理教育の構築 | 15 |
| | | 講師 | 山岡深雪 | 慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援 | 16 |
| | | 助教 | 郡ハルミ | 高齢者の転倒予防支援に繋がるフットケア研究 | 17 |
| | | 助教 | 坂井謙次 | 実習指導の自己評価に関する研究 | 18 |
| | | 助教 | 原村幸代 | 高齢者の運動教室の継続要因 | 19 |
| | | 助手 | 荒武舞 | 基礎看護教育における標準予防策の教育方法に関する研究 | 20 |
| | | 助手 | 井ノ上亜紀 | 基礎看護教育における教材に関する研究 | 21 |
| | 精神看護学 | 教授 | 川村道子 | 精神疾患を持つ方への支援に関する研究 | 22 |
| | | 准教授 | 葛島慎吾 | 精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践に関する研究 | 23 |
| | | 講師 | 河野義貴 | 精神疾患に関する早期介入と再発予防 | 24 |
| | | 助教 | 池間功一 | 精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究 | 25 |
| | 在宅看護学 | 教授 | 川原瑞代 | 地域志向の看護力育成 | 26 |
| | | 講師 | 中角吉伸 | 要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究 | 27 |
| | | 助教 | 稲田夏希 | 地域コミュニティと連携した看護教育に関する研究 | 28 |
| | | 助教 | 宮ゆうこ | 在宅療養者の“その人らしさ”を支える訪問看護に関する研究 | 29 |

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2026年度版 目次

| 分野 | 領域 | 職位 | 氏名 | 研究テーマ | 頁 |
|--------|---------|-------|-----------------------------------|--|----|
| 専門分野 | 公衆衛生看護学 | 准教授 | 河野朋美 | 知的障害者の受診支援／健康管理支援 | 30 |
| | | 准教授 | 中村千穂子 | がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発 | 31 |
| | | 助教 | 妻木美香 | 支援につながりにくい人の発見・関与プロセス—地域における支援のあり方を考える— | 32 |
| | | 助教 | 盛田香織 | 一般就労という自立をめざす精神障がい者の方への支援に関する研究 | 33 |
| | 母性看護学 | 准教授 | 壹岐さより | 妊孕性に重点をおいた思春期健康支援 | 34 |
| | | 講師 | 大野理恵 | 男女の更年期における健康支援に関する研究 | 35 |
| | | 助教 | 田丸喜代子 | 産後マイナートラブルについての研究 | 36 |
| | 小児看護学 | 准教授 | 甲斐鈴恵 | 健やかな親子を育む子育て支援に関する研究 | 37 |
| | | 講師 | 荒武亜紀 | 親子に向けた生活習慣・健康教育に関する研究 | 38 |
| | | 助教 | 五反田奈々 | 地方沿岸部に居住する障害児の平時からの災害支援に関する研究 | 39 |
| | | 助手 | 原口優美 | 乳幼児期の子どもをもつ母親への子育て支援と援助要請に関する研究 | 40 |
| | 成人看護学 | 教授 | 久野暢子 | LGBTQ・HIV陽性者への看護支援 | 41 |
| | | 准教授 | 及川朋実 | 遺伝性のがんの患者と家族への看護 | 42 |
| | | 講師 | 上富史子 | 1. 計量テキスト分析を用いた実習前の看護学生のアセスメントにおける思考過程の可視化 2. 中堅看護師の臨床判断 | 43 |
| | | 助教 | 川西幸広 | 「見過ごされやすい困難」に光を当てる看護学的実証研究 | 44 |
| | | 助教 | 外村美紀子 | 血液透析患者に対する運動支援 | 45 |
| | 老年看護学 | 教授 | 重久加代子 | がん看護におけるケアリングの研究 | 46 |
| | | 准教授 | 益満智美 | 高齢者の睡眠および生活習慣に関する研究 | 47 |
| | | 助教 | 福添純子 | 精神障害をもつ人の共同意思決定に関する研究 | 48 |
| | | 助教 | 丸山加菜 | 1. 看護学生のタッチケア(触れるケア)に関する研究 2. 看護学生の異文化感受性に関する研究 | 49 |
| 看護統合 | 准教授 | 勝野絵梨奈 | 感染看護における教育方法に関する研究 | 50 | |
| | 講師 | 武田千穂 | 新興感染症の危機管理に対応する地域の看護職人材育成プログラムの開発 | 51 | |
| 別科助産専攻 | 教授 | 濱寄真由美 | 育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムの開発 | 52 | |
| | 講師 | 蚊口理恵 | 妊産婦の不眠に対する認知行動療法(dCBT-I)の介入と効果 | 53 | |
| | 講師 | 神菌洋子 | 高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究 | 54 | |
| | 助教 | 佐々木佳代 | 医療施設における「自然な経過」を支える助産師の意思決定プロセス | 55 | |

看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築

キーワード：『看護覚え書』、自然界、生活、教育

領域・氏名

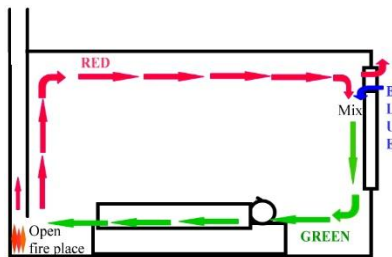
普遍（自然界と看護）准教授／ 小河一敏

概要

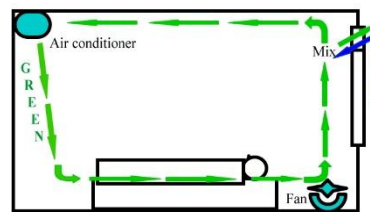
ナイチンゲール著『看護覚え書』を学生が理解できるための自然科学教育、体得できるための生活科学教育の構築がテーマです。

具体的な内容

『看護覚え書』第1章「換気と保温」の章でナイチンゲールが説く方法の根拠を、「伝導・放射・対流」という熱の伝わり方から説きました。19世紀英国の暖炉のある部屋の整え方を学ぶことで、学生は21世紀日本のエアコンのある部屋の整え方を考えます。



19C英国の部屋



21C日本の部屋

「住居の健康」「ベッドと寝具類」等々についても同様に学生がセルフケア能力を体得できる体系的な教育方法を構築しています。

「変化」では「窓の外を見たがった患者を背負って外を見せたため重病にかかった看護師」が紹介されています。学生が自身を傷めないため、ボディメカニクスの体系的な教育も実践しています。

Information

- 『看護学生、宇宙を学ぶ』を刊行
- 生活を体系的に学ぶための「『看護覚え書』に学ぶ生活科学ワークノート」「同ガイドブック【教員用】」を刊行
- 日本看護学教育学会第29回学術集会「看護ハナマル先生」
- 京都大学高等教育研究開発推進センターMOSTギャラリー



研究テーマ

研究倫理審査委員会の審査の質向上について (事務局スタッフへの教育など)

キーワード：研究倫理

領域・氏名

[普遍分野（人間社会と看護）教授／岩江荘介](#)

概要

質の高い研究倫理審査には、委員会を支える事務局の存在が不可欠である。そこで、AMED事業「高品質のIRB審査の基盤となるIRBクラブの設立およびIRB運用ハンドブックの作成と普及に関する研究」での活動を通じて、事務局スタッフ向けの教育の充実を図る。

具体的な内容

これまで、上記AMED事業において「IRB Office Club」の立ち上げに参加（取りまとめ機関：大阪大学）。今後は、同クラブでのセミナーや会合等の充実化への取り組みを通じて、倫理委員会の事務局スタッフの能力向上や、倫理委員会による審査の質向上の実現を目指す。

information

「IRB Office Club」のホームページ：
<http://www.dmi.med.osaka-u.ac.jp/acr/irbees/index.html>

高齢者の介護予防運動の開発と普及

キーワード：高齢者、介護予防運動、健康寿命、体力

領域・氏名

[普遍分野（健康スポーツ科学）教授](#) / [串間敦郎](#)

概要

2004年から県内各地で、「高齢者を元気に」をテーマに介護予防運動の普及・啓発に努めてきました。健康寿命の延伸や体操開発など、地域の皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。

具体的な内容

転倒予防体操を三股町で「はんとけん体操」、旧佐土原町では「ひっこけん体操」として作製し、行政と協働で各地で普及・啓発に努めてきました。2013年からは宮崎市の健康運動教室で使用する11種類からなる介護予防運動「宮崎いきいき健幸体操」を宮崎市と共同で作製し、市内約130の教室で活用されています。

これまでに、介護予防運動の実証的な効果測定や、ラダー運動等の新しい予防運動の開発を行ってきており、高齢者の健康寿命の延伸に向けて研究を進めています。



Information

現在宮崎市と共同で、運動教室の指導員養成や介護施設等の職員向けに、介護予防運動の専門研修会を行っています。高齢者の健康寿命延伸の出前講義、共同研究等可能です。若年期から壮年期までの健康の維持・増進のための出前講義（姿勢矯正、ウォーキング等）も行います。

多読学習の効果、看護学生と異文化理解

キーワード：英語、多読学習、異文化理解

領域・氏名

[普遍分野（個の尊重と看護）教授／川北直子](#)

概要

1) 看護系大学生を対象とする英語教育や異文化理解教育のあり方の向上を目指した研究、2) 早期学習者(幼児・児童)から大学生までを対象とした、多読学習の長期継続による成果や、語彙に関する研究をしています。

具体的な内容

看護学生を対象とした研究では、英語と異文化理解を統合した授業のあり方、海外研修によって看護系大学の学部学生が何を学べるのかについて、洋書読書を通じた学習の意義・効果・課題について分析し、教育の改善に取り組んでいます。また、小中高校生と大学生を対象とした多読学習への導入と長期継続による効果について、語彙分析と学習者分析の視点から研究しています。学習者の個別性による課題を見出し、指導につなげています。

Information

小中学生を中心とした週末英語活動を行っています。学習段階によって、英語読み聞かせ・多読学習への導入など、関心があれば見学にいらしてください。

(小学生：日曜午前中、中学生：土曜の夕方)



研究テーマ

国際コミュニケーションツールを備えるため

キーワード：異文化間コミュニケーション、ESP、ENP

領域・氏名

[普遍分野（個の尊重と看護）講師／](#) [ヘンスリー ジョール](#)

概要

生活習慣の認識と尊重、またコミュニケーションについて、特に異なる文化的背景の患者さんを行うことができるよう、看護学生のための教育方法論を模索しています。

具体的な内容

看護大学生が、国際化の進む世界に出て行くために準備できるような英語教育の目標をもって、看護と異文化間コミュニケーションの交差点で研究を行っています。私の研究のほとんどは英語の教授法に関してですが、過去数年間は、英語が専攻でない学生に向けた英語教育に専念してきました。この専門のための英語として知られている研究は、看護学生が将来のキャリアに向けて準備が整うよう、英語、看護、および異文化間コミュニケーションが重なり合うコミュニケーションスキルの向上について模索しています。これは、他の文化の患者さんをケアするだけでなく、旅行や、ボランティア、また海外での自分の研究を行うためのものです。この数年、この研究の多くは連携して行われ、看護大学生の英語教育についての見識が深まりつつあります。

Information

今、日本の看護専門家の異文化体験インタビュー調査結果と、看護英語教育に関する共同研究プロジェクトで模擬患者のロールプレイ開発を行っています。異文化間看護体験のある看護専門家の方の募集をしていますので、そのお話が大歓迎です。



日本上代文学作品の文献学的研究

キーワード：古事記、日本書紀、風土記、万葉集

領域・氏名

[普遍分野（文化と看護）教授](#) / [大館真晴](#)

概要

上代文学作品（古事記・日本書紀・風土記・万葉集）の表現を研究しています。古事記・日本書紀・風土記・万葉集には、古代の社会制度や人々の生活のあり様を今に伝える貴重な情報が数多くあります。その魅力に一つ一つ迫っていきたいと思い研究しています。

具体的な内容

現在は大きく二つの研究テーマがあります。一つは古事記・日本書紀・風土記といった、上代散文作品と中国古典文学作品の影響関係を考察するものです。もう一つは、古風土記の写本の字体と、木簡や正倉院文書などの字体との比較研究を行うものです。

Information

2014年より小学生・中学生・高校生を対象にした、出前講座「記紀みらい塾」（宮崎県文化振興課）の講師をつとめています。その出前講座では、古事記・日本書紀・風土記に記された日向神話の魅力を発信しています。

睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力

キーワード：睡眠、心拍測定、ホルモン測定

領域・氏名

普遍分野（文化と看護）准教授／ 長坂 猛

概要

日常的な生活の中で得られた睡眠の質と、目覚めた後の情報処理能力や、疲労・眠気の相関を調べます。生理的な信号やホルモン物質の変動をもとに、翌日のパフォーマンスを予測することをめざしています。

具体的な内容

これまで環境変化に伴う生理的な応答（心拍とか唾液ホルモン）について測定をしてきました。

（科研費：26463219など）

現在は眠りの効果に興味を持っていて、睡眠中の身体の動きや、心拍変動、唾液ホルモンなどから、眠りの質的な評価を試みています。ちょっとだけデータ処理もするので、心拍の時系列データを使って自律神経活性の様子なども可視化しています。睡眠の質が影響する（と思われる）翌日のパフォーマンスを調べる手法についても模索していて、各種の判断テストやトラッキング作業などに注目しています。



Information

もともと医療従事者ではないので、看護系のかたに医療に関するアドバイスやサポートを受けながら、研究をしています。他大学のチームとも共同で実験をすることがあります。



研究テーマ

宮崎県の産婦人科医療及び看護の発展を目指す

キーワード：産婦人科、子宮頸がん予防

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）教授／川越靖之

概要

宮崎大学産婦人科で30年以上に渡り臨床、研究を行ってきました。看護大学では、その研究の継続とともに看護の立場からの研究も行っています。それらの研究の還元により宮崎県の産婦人科医療の発展、看護のレベルアップに寄与します。

具体的な内容

宮崎県はお産に関する周産期医療は全国トップレベルを維持していますが、婦人科医療においては遅れが顕著です。子宮頸がんの罹患率が宮崎県は全国一である一方、その予防となるHPVワクチンの接種率および早期発見のための子宮がん検診率は低迷しています。そこで2023年度から宮崎県と協働し子宮頸がんに関して県レベルでのデータの集積、分析を行います。また教育の中でもこの様な婦人科及び周産期に関する生きたデータを学生と共に検討、共有することで問題意識を持った看護師の育成を目指します。

information

2023年から中学校におけるHPVワクチンの出前講座を宮崎県各地で行っています。また当学生による母子保健活動（すくすく倶楽部）を開始、活発化させ、宮崎県民の健康情報への関心を高めるよう自治体と共に活動していきます。

健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究

キーワード：睡眠、自律神経反応、唾液ホルモン、ストレス

領域・氏名

[専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）教授 / \[田中美智子\]\(#\)](#)

概要

自宅での睡眠評価を通して、「生活上でのストレスが睡眠に及ぼす影響」や「睡眠状態が翌日の日常生活のパフォーマンスに及ぼす影響」を検討し、日常生活の質を向上させるための睡眠ケアとその効果について研究しています。

具体的な内容

これまで、成人、高齢者及び更年期女性を対象とし、自宅での睡眠を検討してきました。

（科研費:23593466, 15K11896, 19K11093, 23K10064）

成人女性では性周期で睡眠の質に影響する要因が違ってくことや更年期女性では勤務日と休日での睡眠や自律神経反応への影響の違いなどを明らかにしました。これらの研究を通して、睡眠が生活上のストレスに影響を受けていることが考えられましたが、その具体的な内容を明らかにするには至っていません。また、翌朝の日常生活のパフォーマンスにも影響を与えるため、今後、個人の生活習慣を把握し、それにあつた睡眠改善ケア（呼吸法やアロマなど）を行い、その効果を明らかにしていきたいと考えています。



測定機器：心拍モニターや体動などを捉えるモニターで眠りを調べています。

Information

本研究は福岡県立大学、宮崎大学、鹿児島純心女子大学との共同研究です。また、神奈川県立保健福祉大学、静岡県立大学他の先生方とも「温めること」に関する共同研究を行っています。「睡眠・覚醒」、「ストレス」や「呼吸法」に関するテーマでの出前講義が可能です。



研究テーマ

食品由来脂質成分GGAによる健康維持と疾病予防に関する研究

キーワード：食品機能性、脂質メディエーター
ゲラニルゲラノイン酸(GGA)

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学 I）准教授／ 田端佑規

概要

食品中に含まれる脂質成分GGA（ゲラニルゲラノイン酸）に着目し、その含有食品の探索、体内動態、健康維持機能、疾病予防への応用可能性について研究しています。特に、加齢に伴う体内GGA量の変化や、肝臓における恒常性維持機構との関連を明らかにし、食を通じた予防的アプローチの基盤構築を目指しています。(23K16802, 26K21093)

具体的な内容

- これまで、食品中のゲラニルゲラノイン酸(GGA)の存在や含有量の解析を行い、動物性食品および植物性食品における分布の把握を進めてきました。[Tabata Y \(2025\) Front. Nutr. 12:1652270.](#)
- 食品由来GGAの栄養学的意義に着目し、体内での合成・代謝機構との関連を踏まえながらその生理学的役割を検討しています。[Tabata Y \(2025\) EJMO. 9\(4\)356-361.](#)
- 特に、肝臓におけるGGA恒常性の維持機構や、加齢に伴う変動、発がん予防との関連について研究を進めています。[Tabata Y \(2025\) Front. Aging 6:1680031.](#)
- 今後は、宮崎県産の食材や未利用資源を含む食品中GGAの評価を通じて、健康維持や疾病予防に資する機能性食品研究へ展開したいと考えています。

information

食品成分分析、機能性評価、地域資源活用、予防栄養学の観点から共同研究が可能です。食品・栄養・医療分野を横断するテーマとして、自治体、企業、教育機関との連携を進めていきたいです。



研究テーマ

1. 睡眠と日常生活の質改善プログラムの構築
2. 遺伝性のがんをもつ人とその家族への看護支援

キーワード： 1. 睡眠/自律神経、唾液ホルモン、ストレス
2. 遺伝性疾患、家族間コミュニケーション

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）助教／ 野末明希

概要

1. 成人先天性心疾患患者、働き盛りの更年期男性を対象とした睡眠や日常生活の質向上を目指した研究を行っています。
（科研費：19K19565、23K10034）
2. 遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）をもつ人の遺伝情報に関する家族間コミュニケーション支援の研究を行っています。

具体的な内容

1. 睡眠に関連のあるストレス反応や自律神経を心拍モニターや唾液ホルモンを用いて長期に測定します。その実態をもとに、睡眠の状況が改善できるケアを取り入れ、効果を評価し、睡眠の改善プログラムを構築します。
2. HBOCと診断された人が遺伝情報を親子間で共有していく様相について質的に分析し、看護支援の示唆を得ます。

information

1. 良質な睡眠は心身の健康のために欠かせません。年齢や疾患の有無など、背景が異なる対象集団の睡眠の実態調査や睡眠と日常生活の質改善のためのケアの創出を目指します。
2. 宮崎大学との共同研究です。遺伝性疾患とともに生きる人と家族の支援について、当事者の語りを重視し探究します。



研究テーマ

看護学生の職業コミットメントに関する研究

キーワード：職業コミットメント、メタ認知、看護師離職

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅱ）講師／ [加藤沙弥佳](#)

概要

「看護基礎教育の中における職業コミットメントの形成が、その後の組織定着を高めることが明らかになっています。そのため、職業コミットメントを高める経験を明らかにし、職業コミットメントを促進する教育プログラムの構築を図ることを目的とした研究に取り組んでいます。

具体的な内容

職業コミットメントは「職業に対する感情的な反応に基づく、人とその職業との間の心理的なつながり」と定義され、情緒的・功利的・規範的コミットメントの3要素モデルで説明されます。看護師は専門性の高い職業であり、自らを「組織人」としてよりも、「職業人」としてコミットメントする傾向が強く、職業コミットメントが高い新人看護師は有能かつ仕事への満足度が高いことが明らかになっています。職業コミットメントは、看護職への関与を体験できる実習や演習により促進され、学年が上がるごとに変化しますが、具体的にどのような教育的要素としての経験が関与しているのか明らかになっていません。そこで、職業コミットメントに影響を与える教育的要素を明らかにするとともに、それらの教育的要素を取り入れた教育プログラムを構築し、プログラムの効果について検証していきたいと考えています。

information

看護師の離職問題、看護師のメンタルヘルス支援、認知行動療法に関するテーマの共同研究を希望します。精神専門看護師として、看護職者を対象としたメンタルヘルス支援の経験がありますので、職員を対象としたメンタルヘルスに関する研修を行うことが可能です。



研究テーマ

特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する 分析とその可視化～自治体への支援のために～

キーワード：地域、健康データ、分析、可視化、支援

領域・氏名

[専門基礎分野（看護人間学Ⅲ）教授 / 中尾裕之](#)

概要

地域で収集された健康データを客観的・科学的に分析し、様々な事業に活用できるよう、分析手法や可視化の方法の改良などに取り組んでいます。また、データ解析や量的研究デザインに関して、看護研究へのサポートを行っています。

具体的な内容

医療や保健施策の分野においては、健康日本21、健康増進計画、医療費適正化計画などにおいて、実態の把握と課題の明確化、数値目標の設定を含む計画の策定、数値目標の評価と計画の見直しというPDCAサイクルを展開して保健事業を実施することが求められています。昨今、健診・保健指導・医療費・介護等のデータが利用可能なデータベースが整備されてきていますが、実際の分析や事業への利活用まではハードルが高く、大学等の研究機関による支援が求められています。

そこで我々は、地域で収集された健康データを客観的・科学的に分析し、様々な事業に活用できるよう、分析手法や可視化の方法の改良などに取り組んでいます。

この他に、高齢者のセクシュアリティに関する研究、飲酒量と総死亡の関係についてのメタ・アナリシスなどの研究を行っています。また、データ解析や量的研究デザインに関して、看護研究へのサポートを行っています。

Information

データの集計方法、データの可視化の方法、基本的な統計手法、量的研究方法などに関する出前講義が可能です。

高齢者および障害者入所施設における感染対策に関する研究

キーワード：感染対策、高齢者福祉施設、出前研修

領域・氏名

[看護（基礎看護学）准教授／ \[邊木園幸\]\(#\)](#)

概要

高齢者施設における感染対策に関する実践型出前研修プログラムを構築しました。高齢者施設のご要望をふまえて、施設へ出向いて研修を行います。また、障害者入所施設の感染対策マニュアル及び研修プログラムを作成中です。取組みを通して、高齢者施設および障害者入所施設の感染対策の充実を図ることを目指しています。

具体的な内容

県内の感染管理認定看護師との協働で、基本的な考え方と具体的な実践例をまとめた資料を作成しています。高齢者施設や障害者入所施設という生活の場における感染対策の実践は課題も多いと考えています。できるだけ施設職員の疑問や困りごとを解決できるように支援を予定しています。

Information

医療機関だけでなく高齢者施設や障害者福祉施設等の感染予防・感染対策も地域の課題と考え、試行錯誤しながら取り組んでいます。感染管理に関する出前講義が可能です。



研究テーマ

看護理論の修得過程 / 人権・倫理教育の構築

キーワード：看護理論、人権・倫理、医療・看護の歴史

領域・氏名

看護（基礎看護学）准教授 / 毛利聖子

概要

ナイチンゲール看護論を軸に、よりよい看護実践ができるように、看護理論を修得するプロセスや看護理論の活用について、看護理論と実践の往還を中心に研究しています。また、医療や看護の歴史をたどり、人権を護り、人間に対する深い理解と倫理観を培う教育内容の構築を目指しています。

具体的な内容

実践の現場で対応困難な事例、方向性が見えない事例など、事実を整理し、事例検討会を行っています。どのように対象をみていけばよいのか、どこにどのような問題が存在しているのか、など看護理論を活用し検討しています。

また、看護の基盤となる人間の見つめ方、人間理解を深めるために、人間が病む人をどのように見つめて来たか歴史を辿り、現在の人権擁護・医療者の倫理を考えます。

Information

事例検討会のチューターを行っています。「科学的看護論」の理論枠組みに基づく「実践方法論」を適用し、よりよい看護実践に向けて共に考えていきます。看護の基盤となる考え方をもとに、看護の質向上をめざした取り組みを現場の皆さんと共に行っています。

著書:『看護理論の修得過程における共通構造の可視化』

実践報告:「事例検討会における看護師長・副看護師長の看護管理者としての成長～「ナイチンゲール看護論」を基盤として～」

研究報告:『看護学生が学ぶ「人権論」の授業への試み』

短報:『看護学生の「医の歴史と倫理」の授業からの学び』



慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援

キーワード：慢性疾患、看護、療養生活支援

領域・氏名

[看護（基礎看護学）講師 / 山岡深雪](#)

概要

慢性疾患を抱えて生活している患者がその人らしく療養生活を送ることを支える看護について研究していきたいと考えています。

具体的な内容

慢性疼痛患者の生活再構築を支える看護師の関わりを研究素材とし分析した結果から、患者が生活過程を振り返り調整できるよう支えることが重要であるとの結果を得ました。今後は、慢性疾患の悪化や発見によって入院されたが、現在、在宅療養でコントロール良好な方のインタビューを通して、その方々の生活過程の振り返りの在り方について抽出していければと考えています。

Information

糖尿病看護や、リハビリテーション看護、慢性疼痛患者への看護に関する共同研究を希望します。



研究テーマ

高齢者の転倒予防支援に繋がるフットケア研究

キーワード：高齢者、フットケア、転倒予防支援

領域・氏名

[看護（基礎看護学）助教 / 郡ハルミ](#)

概要

我が国は超高齢化が進み、健康寿命を延ばすことが喫緊の課題となっています。中でも要介護の原因となる転倒は、高齢者のQOLを著しく低下させます。そこで、転倒を予防する観点から「歩く足を整える」フットケアについて研究を進めています。

具体的な内容

高齢者の足の異常の多さや、意識の薄さ、転倒と足の異常の関連が明らかにされています。転倒予防支援にむけたフットケア研究は進んでいない現状があります。転倒予防支援としてのフットケア研究として、転倒予防に繋がるフットケアのエビデンス、簡便でセルフでも支援でも実践可能なフットケアについて検討していきたいと考えています。

information

フットケア指導士として正しい知識とケアについての研修活動や病院、施設との連携をとり、活動を広げながら地域に貢献していきます。興味があられる方は、是非ご連絡ください。

実習指導の自己評価に関する研究

キーワード：臨地実習、実習指導、指導過程、自己評価

領域・氏名

看護（基礎看護学）助教 / 坂井謙次

概要

臨地実習指導において、学生の関わりが患者にとって看護となるように指導できているかと、指導を自己評価しながらより良い指導となるよう努めることが求められます。諸現象が絡み合う実習状況において、どのように自己評価することがより良い指導につながるかについて研究しています。

具体的な内容

これまで、実習指導場面を患者—学生—教員の関係性から見つめ、指導後の学生や患者の変化の意味や教員の指導上の判断について分析、検討してきました。そして、抽出した「基礎看護学実習における実習指導の自己評価の構造」を活かし、実習指導に困っている指導者の役に立てればと思っています。

患者と学生にどのような関わりがあったのか、学生と指導者にどのようなやり取りがあったのかという実習指導過程を事実的に振り返り、意識していなかった指導者自身の認識を見つめなおすことで、多くの気づきが生まれます。その気づきは、実習指導のやりがいにつながっていくと実感しています。

Information

実習指導の振り返りだけでなく、看護実践の振り返りについての検討においても、連携が可能です。



研究テーマ

高齢者の運動教室の継続要因

キーワード：高齢者、運動、継続

領域・氏名

[看護（基礎看護学）助教／原村幸代](#)

概要

高齢者を対象とした運動教室への参加の継続要因に関する研究を行っています。

具体的な内容

高齢者の健康寿命の延伸の必要性がいわれ、多くの地域で運動教室が開催されています。高齢者が健康に生活していくためには、運動を継続することが必要であると考えました。そこで、高齢者を対象とした運動教室への参加を継続する要因に関する研究に取り組んでいます。

Information



研究テーマ

基礎看護教育における標準予防策の教育方法に関する研究

キーワード：基礎看護学、標準予防策

領域・氏名

[看護（基礎看護学）助手 / 荒武 舞](#)

概要

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、医療を提供する場において標準予防策を徹底することの重要性を再認識しました。標準予防策の実施につながる教育方法に関心があります。

具体的な内容

感染管理認定看護師として医療施設内の感染予防・制御に関わり、様々な職種とともに標準予防策の徹底に取り組んできました。この経験から、これから看護専門職者となる方々が学ぶ基礎看護学のなかで、標準予防策に関する考え方の理解、感染予防に関する基礎技術の習得につながる教育方法について研究を通して学びを深めたいと考えます。

information



研究テーマ

基礎看護教育における教材に関する研究

キーワード：基礎看護学、教材

領域・氏名

[看護（基礎看護学）助手 / 井ノ上亜紀](#)

概要

看護教育の学びを助けるものとして教材はなくてはならないものです。看護職者として看護の思考過程を確立させ、看護技術や知識を定着させるために効果的な教材の在り方について関心があります。

具体的な内容

臨床の看護師とし看護師教育や学生教育に携わる中で、様々な教材、シミュレーター、モデルなどを使用して教育を行っていました。この経験から対象に合わせた教材作成や教授方法の工夫の必要性を感じていました。

基礎看護学においては看護の思考過程や、様々な看護技術の習得のために教材の工夫がなされています。また近年はICT教育の浸透により様々な媒体を使用して看護教育が行われています。対象となる学生が自ら考え、学び、看護職者として自律していくための教材の在り方について研究していきたいと考えます。

information

精神疾患を持つ方への支援に関する研究

キーワード：精神疾患、支援

領域・氏名

[看護（精神看護学）教授 / 川村道子](#)

概要

精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、認知症、アディクションなど）の病の成り立ちや、当事者への支援をどのように考えると有効となるか、などについて様々な取り組みを行っています。また、精神の病に追い込まれないように、メンタルヘルスマネジメントをどのように行うと良いのかについても合わせて追及していています。

具体的な内容

人間にとって精神が健康であるというのはどのような状態を指すのか、その健康な状態からどのような生活によって精神の病の方に追い込まれていくのかを、それぞれの個人の人生史を辿りながら紐解いていくことを試みていきます。また、その人のおかれた環境（人的環境、物理的環境、文化、経済、宗教など）によって、精神の病の考え方や支援方法に違いがあったり、共通性があったりしますが、その国の特徴を踏まえた国際比較研究も行っています。

Information

メンタルヘルスマネジメント、精神疾患を持つ方への支援の考え方、事例検討など各病院で実施する研修会に出向くこともできます。どうぞお問い合わせください。

精神障害者のセルフコンパッションを高める 看護実践に関する研究

キーワード：精神障害者、セルフコンパッション、
看護実践

領域・氏名

看護（精神看護学）准教授／ 葛島慎吾

概要

近年、精神障害者の地域移行が推進されていますが、精神障害者の地域移行は、当事者の精神症状や社会性の低下に加えて、スティグマやセルフスティグマによる自己批判的な思考が影響して難しいといわれています。このような、自己批判的な思考に対して、優しさを持って向き合い、自分自身をありのままに認めることにつながる概念としてセルフコンパッションがあり、精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践について探求しています。

具体的な内容

精神障害者のセルフコンパッションを「精神障害を持っていても、困難な状況により生じた苦しみを、他者とつながる中で人間共通の経験であると認識し、ありのままに受け止めた上で、現実適応につなげていく力」と定義した上で、精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践について、インタビュー研究を行い、その結果に基づき、臨床活用のための看護実践モデル開発に取り組んでいます。

Information

セルフコンパッションはバーンアウト予防など看護師の精神的健康にも有用な概念ですので、看護実践だけでなく、メンタルヘルスに関連した研修実施が可能です。精神看護専門看護師としても活動していますので、お問い合わせください。

精神疾患に関する早期介入と再発予防

キーワード：性教育、マインドフルネス

領域・氏名

[看護（精神看護学）講師](#) / [河野義貴](#)

概要

思春期男性の声を聞きながら、悩みを小さくし、社会の中で生きる力が身に付けられるプログラムを検討しています。
また、マインドフルネス（瞑想）を使って、メンタルヘルス研修を行い、思考や気持ちを整えるための研修を行っています。

具体的な内容

これまで児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育』のプログラム作成に携わってきました。
女性の月経教育は充実しつつありますが、男性の性教育は確立できていない段階です。思春期の男性の疑問や悩みを聞きながら性教育を行っています。性の問題は「生きる力」と深くつながっており、「生きる力」を身に付ける事はその後の人生を大きく左右します。変化する社会の中で柔軟に対応できる「生きる力」を身に付けられるプログラムを検討しています。
また、マインドフルネス（瞑想）を使って、未来を予測して抱く不安や過去の後悔を忘れて、今、その時の感覚に集中して日々の生活を充実できるようにするための研修を行っています。

Information

「男性の性教育」「マインドフルネスを活用したメンタルヘルス研修」を行っています。このテーマでの出前講座は可能です。



研究テーマ

精神科病院における退院支援に活かす 精神科退院前訪問に関する研究

キーワード：地域移行支援、精神科退院前訪問

領域・氏名

看護（精神看護学）助教／池間功一

概要

日本の精神科では在院日数の長期化が課題となっています。そこで私は、精神科病院において患者様が退院後地域生活を送るために必要な看護について研究を行っています。

具体的な内容

精神科では患者様の地域移行が進められていますが、現状では、地域移行が困難である事例も少なくありません。その中で、精神科退院前訪問は制度開始以降、様々な病院で活用されています。しかし、具体的な内容については各病院にゆだねられており、各病院によって様々な運用がなされている現状があります。精神科退院前訪問で得た情報や指導内容と病棟内看護とを循環し、患者の退院支援に活かす退院前訪問の在り方を明らかにすることで、「入院治療から地域中心へ」という精神保健福祉の改革ビジョンを実現に貢献できる一助となると考えています。

information

地域志向の看護力育成

キーワード：訪問看護、教育プログラム、地域志向

領域・氏名

[看護（在宅看護学）教授 / 川原瑞代](#)

概要

在宅療養が推進される中、地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師の育成が求められています。地域を志向した看護力の現状や課題の分析や地域特性とニーズをふまえた、地域志向看護教育プログラムの開発等に取り組んでいます。

具体的な内容

「地域特性に応じた地域連携の実際」「訪問看護ステーションの機能強化に関わる実態」「新卒訪問看護師育成のための標準プログラムの開発と検証」等について、宮崎県、宮崎県看護協会、訪問看護ステーション、医療機関等と協力し実践活動や研究活動に取り組んでいます。段階的な教育プログラムの作成や研修体系の構築の中でも特に、OJTとOff-JTが連携した、新卒訪問看護師の教育の在り方が近年の重要なテーマです。

一般的に、経験豊富な訪問看護師が就業すると考えられている訪問看護ステーションですが、療養者や家族のニーズが多様化し、訪問看護人材の不足が深刻な問題となっており、新卒訪問看護師の養成には大きな期待が寄せられています。これまでの取組で、それぞれの成長に合わせた支援の重要性や課題、新卒訪問看護師や管理者、プリセプターへの支援の重要性、育成プログラムの有用性などが明らかになっています。

Information

専門職向けには在宅看護、地域包括ケア、地域志向の看護力などについての研修、一般の方向けには高齢の方への介護や健康づくり等の研修に携わっていますので、お問い合わせください。また、新卒訪問看護師育成に興味のある方、ぜひお知らせください。

要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究

キーワード：介護予防、運動プログラム、高齢者

領域・氏名

[看護（在宅看護学）講師 / 中角吉伸](#)

概要

要支援・要介護状態の高齢者が、本人の望む場所で生活・療養するためには、日常生活動作（以後ADL）が維持され介護度が上がらないことが重要となります。そのために、できるかぎりADLを維持するための運動プログラムについて研究しています。

具体的な内容

これまで、宮崎県立看護大学と宮崎市が協力して、健康高齢者の介護予防のために介護予防運動プログラム「宮崎いきいき健幸体操」の開発や普及を行ってきました。その中で、普及活動の一環として運動指導員の養成や施設職員に対する専門研修会等で、運営の一員として参加してきました。会を重ねる中で、実際に運動指導を行っている現状において、要支援者や要介護者に運動プログラムを適用することが困難であるという問題が浮き彫りになってきました。

少子高齢社会を向え、将来の年金や医療制度の維持存続が不安視される中、高齢者の健康寿命を延伸する支援が求められます。しかし、高齢者は個々の病歴や生活歴によって運動機能に差があり、安全に効果的に運動プログラムを実施する難しさがあります。そのため、自助や互助によって、地域住民同士でも健康増進が図れるツールの開発が急務と考え、研究に取り組んでいます。

Information

「宮崎いきいき健幸体操」を基に、運動指導をする指導員の養成講座や、高齢者施設の職員に対して研修会を行ってきました。高齢者の健康維持増進に向けた運動指導等のテーマで出前講義が可能です。



研究テーマ

地域コミュニティと連携した看護教育に関する研究

キーワード：地域コミュニティ 看護教育

領域・氏名

[看護（在宅看護学）助教／](#) [稲田夏希](#)

概要

看護大学が社会資源の一つとして地域包括ケアシステムに貢献し、地域住民と互恵性のある関係性を構築しながら、地域住民と一緒に看護師育成ができるような教育方法の研究に取り組んでいきたいと考えています

具体的な内容

地域で暮らす高齢者に通える場所があることは、高齢者の社会的孤立を防ぐことや、地域コミュニティづくりに重要であると考えます。健康づくりを目的とし、世代背景が異なる地域高齢者・看護学生・看護教員が交流する「通いの場」を提供します。そこで世代間交流プログラムを実践し、参加した高齢者や看護学生への効果を検証しながら、より良い世代間交流プログラムの開発に取り組めます。

information

令和8年度は「つながる健康ひろば@県立看護大学」として、地域在住高齢者に対し、健康チェック・健康ミニ講座・語り合いの内容で世代間交流プログラムを実施します。

在宅療養者の“その人らしさ”を支える訪問看護に関する研究

キーワード：その人らしさ、訪問看護

領域・氏名

看護（在宅看護学）助教 / 宮ゆうこ

概要

在宅療養では、療養者の生活や価値観を尊重しながら支援する看護が重要とされており、訪問看護師は生活支援と医療的判断を統合した看護実践を担っています。研究では、在宅療養において訪問看護師が経験する判断の迷いや葛藤に着目し、その特徴や背景を明らかにすることで、訪問看護実践の理解を深めることを目指します。

具体的な内容

在宅療養では、療養者の生活や価値観、家族の意向、医療的安全性などが複雑に関係するため、訪問看護師は多様な状況の中で判断を行っています。例えば、健康管理を優先するべきか生活の希望を尊重するべきかといった場面や、療養者や家族の意向と医療的判断との間で迷いや葛藤が生じる場面があります。

こうした在宅療養の場特有の判断場面に着目し、訪問看護師がどのような視点から状況を捉え、どのように判断を行っているのかについて整理したいと考えています。これにより、訪問看護師の判断の特徴や実践知を明らかにし、在宅療養者の生活を支える看護のあり方について検討していきたいと考えています。

Information（情報）

在宅で療養されている方々が、住み慣れた地域でその人らしく生活できるような看護のあり方を大切にしています。



研究テーマ

知的障害者の受診支援／健康管理支援

キーワード：（知的）障害者の受診、健康管理、健康格差の縮小

領域・氏名

[看護（公衆衛生看護学）准教授／河野朋美](#)

概要

地域で暮らす人々の健康格差を縮小するための支援について研究しています。なかでも知的障害者の方々は生活習慣病をはじめとする健康課題を多く有しているにも関わらず、医療機関の受診や自身での健康管理に困難を感じていることから、それらの現状の改善につながる具体的な取り組みを明らかにしたいと考えています。

具体的な内容

これまで「知的障害者の受診支援」をテーマに、知的障害者と保護者が医療機関の受診を困難と感じるプロセスや現状・ニーズから課題を明らかにしてきました。現在は、障害者就労継続支援B型事業所の健康管理に着眼し、体制強化とその支援に向けた調査やインタビューを行っています。

information

障害を抱える方やその支援者の方々と多くつながり、生の声をたくさん聞かせていただきたいと思います。当事者の方、関係者の方のご連絡等お待ちしております。

がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発

キーワード：がん体験、ピアサポート

領域・氏名

[看護（公衆衛生看護学）准教授 / 中村千穂子](#)

概要

現在、国民の2人に1人はがんにかかるといわれ、国のがん対策推進基本計画ではピアサポートの充実が述べられています。がんを経験した看護職者を対象に医療職者であると同時にがん体験者であるという2つの立場からがん患者のピアサポートができることを目指した研修プログラムの開発を目的としています。

具体的な内容

がんを経験した看護職者の患者会にてカフェやピアカウンセリングナース養成講座の開催に携わってきました。養成講座では、ピアサポートの基本や臨床倫理について、コミュニケーションについてなどを講義だけではなくロールプレイを交えながら学べる内容にしています。今後は、参加者がどのように学びを活かしているか、どのような研修内容が実践につながっているのかを明らかにしていきたいと考えています。その結果をもとに、ピアカウンセリングナース養成講座やフォローアップ研修の内容の充実を図っていききたいと考えています。

Information

がん体験を看護に活かしていきたいと考えている方たちと一緒にとりくんでいきたいと思えます。



研究テーマ

支援につながりにくい人の発見・関与プロセス —地域における支援のあり方を考える—

キーワード：保健師、社会的孤立、地域包括ケア、
多職種連携

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）助教 / 妻木美香

概要

ひきこもりや社会的孤立など、支援が必要でも自ら相談につながらない人への対応が課題となっています。保健師としての実践経験を踏まえ、地域での活動に着目し、支援につながりにくい人への気づきから関わり、継続支援に至る過程を明らかにし、地域での支援のあり方を探求しています。

具体的な内容

地域で支援につながりにくい人々に対して、保健師がどのように対象者に気づき、関係性を築き、支援へとつなげているのか、その過程に関心をもって研究に取り組んでいます。これまでに、保健師の地域活動の特徴や役割について整理してきました。今後は、実践の中で蓄積されてきた関わりのあり方を丁寧に捉え、地域の実情に応じた支援の進め方を示すとともに、実践や人材育成に資する知見の提示を目指します。

information

自治体の保健師教育、自治体や地域包括支援センター、福祉・医療機関等と連携し、ひきこもりや社会的孤立にある方への支援について、一緒に考えることができます。また、地域での気づきや関わり方を整理し、支援の進め方を検討することも可能です。現場の課題に応じた共同研究や出前講座など、お気軽にご相談ください。



研究テーマ

一般就労という自立をめざす精神障がい者の方への支援に関する研究

キーワード：精神障がい者、一般就労、自立、看護の視点

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）助教／ 盛田香織

概要

一般就労という自立をめざしている精神障がい者の方が、就労にむけて前向きな気持ちをもちながら就労活動を進めていくことができた看護過程から看護の視点を得て、自立につながる就労支援を行う。

具体的な内容

小規模作業所に通所しながら一般就労という自立をめざしている精神障がい者の方への支援を通して、前向きな気持ちをもちながら就労活動を進めていくことができた看護の関わりを以下の4つの段階に区分しました。

1. 就労への思いを示し、病気の不安の表出や発症時を客観視し、自立への思いが膨らんだ時期
2. 障害を開示すると決断でき、具体的な就労活動につながった時期
3. 家族の健康問題での経験が自立に役立つと感じた時期
4. 障害者職業センターでの職業評価結果にショックを受けたが、次に進むことができた時期

各段階で導き出した看護の視点をもとに、精神障がい者の方々自身が自分の「ありたい姿」を描きながら、自立につながる生活を送っていけるための支援について考えていきます。

information

精神障がい者の方々、そのご家族が、地域でいきいきと生活できることをめざしています。



研究テーマ

妊孕性に重点をおいた思春期健康支援

キーワード：思春期、性教育、妊孕性、不妊症

領域・氏名

[看護（母性看護学）准教授 / \[壹岐さより\]\(#\)](#)

概要

生殖補助医療の発展は目覚ましいものですが、その一方で不妊治療による悩みやこころの負担は決して小さいものではありません。不妊症を予防するためにも男女とも思春期からの妊孕性の教育を含めた性教育を探求していきます。

具体的な内容

これまで児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育』のプログラム作成に携わってきました。性感染症や望まない妊娠を教育する性教育も大切ですが、自分の身体に関心を持ちながらセルフケアできる力が必要であることがわかってきました。また、生殖医療相談士として活動する中で、不妊治療中の心身の負担を軽減する必要性も感じてきました。

女性も男性も思春期からセルフケアできるために必要な知識や教育について研究しています。

Information

すべての女性が自分のライフサイクルを見ずえて出産できるような支援を目指して、地域の様々な職種と連携していきたいと考えています。



研究テーマ

男女の更年期における健康支援に関する研究

キーワード：更年期、生活調整、健康支援、セルフケア

領域・氏名

[看護（母性看護学）講師 / \[大野理恵\]\(#\)](#)

概要

更年期は、女性だけでなく男性においても身体的、心理的・社会的変化が生じる重要なライフステージです。更年期症状に悩む人は多いものの、更年期に関する正しい知識を持ち、具体的な対処法や予防法を理解・実践している人は少ないのが現状です。本研究では、更年期にある人々が自身の心身の変化を理解し、主体的にセルフケアを実践できるようにするための健康支援のあり方を探求しています。

具体的な内容

2021年度より更年期に関する正しい知識の普及とセルフケアの促進を目的として、「更年期を幸年期に」をテーマとした健康支援プログラムを作成し、地域住民を対象に県内各地で講義を実施しています。講義参加者に対してアンケート調査を行い、更年期に対する認識や知識、セルフケア行動の変化を分析することで、プログラムの効果検証および支援方法の改善に取り組んでいます。また、近年では男性の更年期支援についても取り組んでいます。地域住民の健康増進や企業における健康経営、地域における更年期支援体制の充実に寄与できるような取り組みを続けていきます。

Information

男女の「更年期支援」に関する内容や、女性の健康支援に関する出前講座が可能です。引き続き更年期のセルフケアに関する研究に取り組んでいきます。



研究テーマ

産後マイナートラブルについての研究

キーワード： 産褥期、骨盤底筋群、姿勢、運動

領域・氏名

[看護（母性看護学）助教 / 田丸喜代子](#)

概要

女性の健康について身体を支える骨盤底筋や姿勢の保持など身体的な側面からの支援の必要性について研究をしています。さらに女性の生涯における妊娠・出産・産後・更年期などの女性特有の様々なターニングポイントで変化する身体的健康支援について探求を続けています。

具体的な内容

これまで、産褥早期のマイナートラブルについて身体的な側面からの支援に焦点を当てた研究や中山間地域の思春期の健康支援、更年期女性の健康支援に関わる事業と研究に関わって来ました。またyoga講師、マットピラティスのインストラクター経験から県内保健所や企業等で女性への運動指導なども行っています。女性は女性ホルモンにより一生涯で身体的に様々な変化が行っています。そのターニングポイントを快適に過ごせるセルフケアの方法を一緒に考えていきます。

information

女性の各ライフステージで現れる身体的変化を運動支援を通して考えていきます。

健やかな親子を育む子育て支援に関する研究

キーワード：子育て支援、おもちゃ、電子メディア

領域・氏名

[看護（小児看護学）准教授／](#) [甲斐鈴恵](#)

概要

親子が集う場を提供し、子どもが健やかに育まれるために必要なニーズや課題を明らかにしています。現在は、乳幼児・学童期の電子メディア接触について研究を行っています。

具体的な内容

優良なおもちゃを用いた「おもちゃ広場」を「グッド・Toyみやざき」と協同で大学内および県や民間企業と連携し県内各地のイベント会場で開催しています。その活動の中から、子育てにおけるニーズや課題を明らかにしています。

また、乳幼児・学童期の電子メディア接触について「子どもとメディアみやざき」と協同で実態調査を行い、その結果の一部を学会発表し、報告書を作成しました。また、啓発活動に活用できるリーフレットをともに作成しました。

Information

上記活動は、「グッド・Toyみやざき」、「子どもとメディアみやざき」との協同実践(研究)です。

全ての親子が笑顔で過ごせることを願い、地域の様々な方と連携していきたいと考えています。



研究テーマ

親子に向けた生活習慣・健康教育に関する研究

キーワード：生活習慣、健康教育、じぶんのからだノート

領域・氏名

[看護（小児看護学）講師 / 荒武亜紀](#)

概要

幼児期、学童期の親子を対象にした健康教育に関する研究に取り組んでいます。現在は、「じぶんのからだノート」を活用し、幼児期、学童前期のこどもと家族がじぶんの体調と生活を可視化し生活を振り返ることで、自分のからだや生活の特徴について意識できるよう取り組んでいます。

具体的な内容

こどもの血圧測定、経皮的酸素飽和度測定、握力測定、片脚立ち測定、身長、体重を測定した後、「じぶんのからだノート」を活用し、自分のからだの調子や生活を可視化する取り組みを行っています。幼児期から健康な生活習慣づくりを親子だけでなく、保育所・学校等と連携して取り組んでいくことで、自分のからだの調子や生活の特徴について意識できるだけでなく、将来の生活習慣病の予防につながることを目指し、継続した支援のあり方を検討していきたいと考えています。

information

こどもへの健康教育、先天性心疾患のこどもと家族への支援、周手術期のこどもと家族への支援、医療的ケアのあるこどもと家族への支援、こどもへのがん教育に関するテーマで取り組んでいます。

幼児、学童、その家族を対象に「小さい赤ちゃんの誕生！」「子どもの成長発達」「がん教育」に関するテーマでの出前講義が可能です。



研究テーマ

地方沿岸部に居住する障害児の平時からの災害支援に関する研究

キーワード：重症心身障害児 医療的ケア児 防災

領域・氏名

[看護（小児看護学）助教／ \[五反田奈々\]\(#\)](#)

概要

障害をもちながら生活するこどもとその家族の平時からの災害支援に関する研究について取り組んでいます。

具体的な内容

南海トラフ地震において被災する可能性の高い地方沿岸部に居住する医療的ケア児や重症心身障害児とその家族の平時からの備えや災害支援の現状と課題を明らかにすることを目的に研究を進めています。

information

こどもの防災や聴覚障害児者とその家族への防災教育に関するテーマでも取り組んでいます。



研究テーマ

乳幼児期の子どもをもつ母親への子育て支援と 援助要請に関する研究

キーワード： 子育て、母親、援助要請

領域・氏名

[看護（小児看護学）助手 / 原口優美](#)

概要

乳幼児の子どもを育てる母親において、必要な時に他者に援助を求めることは重要です。本研究では、乳幼児を育てる母親の「被援助志向性(援助を求めるかどうかについての認知的枠組み)」について着目し、育児不安や育児負担感との関連について研究しています。

具体的な内容

近年、核家族化や地域とのつながりの希薄化により、子育て世代が社会的に孤立しやすく、育児不安や育児負担感を抱え込みやすい状況にあります。現在、子育て支援制度は充実しているものの、援助要請に対しての抵抗感などから、支援につながりにくい親も存在しています。

本研究では、乳幼児期の子どもを育てる母親の「被援助志向性」に着目し、育児不安や育児負担感、社会背景との関連について検討し、必要時に援助を求めながら子育てできる支援のあり方について検討しています。

information

LGBTQ・HIV陽性者への看護支援

キーワード：LGBTQ、HIV陽性者、受療支援

領域・氏名

[看護（成人看護学）教授 / 久野暢子](#)

概要

LGBTQ（性的マイノリティ）の方に対するより良い看護支援を探究しています。

具体的な内容

これまで、HIV陽性者の方の在宅療養を促進するために看護職への支援を中心とした研究を行ってきました。その経験を活かし、現在はLGBTQ（性的マイノリティ）の方へと対象を広げた研究に取り組んでいます。LGBTQの方が医療機関への受診の際に不快な思いを抱いたり、それを避けるために受診を躊躇うなど多くの課題があります。ご自身の健康を守るために適切な時期に受療行動をとれるよう、医療の提供者である看護職への教育的介入を中心とした活動を行っています。その活動の根拠となりうる知見を得たり活動の効果判定を行うための研究を行っています。

Information

ALLY（LGBTQ当事者たちに共感し、寄り添いたいと思う人）
ナースの育成に興味関心がある方、一緒に取り組みましょう。

遺伝性のがんの患者と家族への看護

キーワード：遺伝性腫瘍、HBOC、遺伝がん看護

領域・氏名

[看護（成人看護学）准教授／ \[及川朋実\]\(#\)](#)

概要

遺伝性のがん、特に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の方とその家族の遺伝情報に関するコミュニケーションを促進する看護援助モデルを構築しようとする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

第3期がん対策推進基本計画によりわが国のがんゲノム医療は急速に実装化され、第4期ではがんゲノム医療の提供体制がさらに整備されて個別化医療が進展していきます。この中で、遺伝性のがんも注目されています。遺伝性のがんと診断された者の家系では、予防や早期発見の観点から、血縁者に病気について理解を促し、疾患に対して備えていくことが望まれます。そのために血縁間での情報共有は欠かせません。しかし、遺伝情報という特性故、難しいのが実情です。

がんの遺伝情報に関する家族間コミュニケーションの様相、医療提供者が捉えている課題を明らかにし、欧米で先行している支援方法を参考にしながら国内で活用できる支援モデルを見出していきたいと考えています。

Information（情報）

遺伝性のがんと共に生きる方への看護、子どもをもつがんと共に生きる方への看護、学童・生徒へのがん教育、手術療法を受ける患者様・ご家族への看護、救急医療における看護に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生や一般市民を対象にした救急蘇生法の講習も実施しています。



1. 計量テキスト分析を用いた実習前の看護学生のアセスメントにおける思考過程の可視化
2. 中堅看護師の臨床判断

キーワード： 1. 看護学生、アセスメント、可視化
2. 臨床看護師、臨床判断

領域・氏名

看護（成人看護学）講師／ 上富史子

概要

1. 成人看護学における実習前の看護学生のアセスメントにおける思考過程を可視化するために、計量テキスト分析を用いた研究に取り組み、IoT技術の活用も目指しています。
2. 中堅看護師が潜在的に持っている自己の臨床判断を顕在化し、看護実践への自信確立につなげられるために、中堅看護師を対象とした研究に取り組んでいます。

具体的な内容

1. 計量テキスト分析を用いて、実習前の看護学生のアセスメントにおける思考過程を可視化し、その特徴を抽出することで、看護実践力の育成に向けた、IoT技術を活用した成人看護学での技術教育への示唆を得る目的で研究を行っております。
2. 看護実践の中心的役割を担う3~5年目中堅看護師を対象にして、術後せん妄状態にある患者に対する臨床判断の要素と構造を明らかにした研究を行っています。中堅看護師が自己の看護実践を客観的に振り返り、実践力向上につなげられるような支援を見出していきたいと考えております。

Information

看護学生のアセスメント能力向上のための教育に関するテーマや看護師の臨床判断に関するテーマについての共同研究を希望します。



研究テーマ

「見過ごされやすい困難」に光を当てる看護学的 実証研究

キーワード：看護学、困難、多様性、医療体験、QOL

領域・氏名

看護（成人看護学）助教 / 川西幸広

概要

医療や看護の現場では、少数制や個別性に伴う困難が見過ごされがちです。本研究は看護学生や医療者、患者の経験や認識に着目し、それらが生活や看護実践にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにします。質的・量的研究を通じて、看護実践および看護教育における具体的な支援のあり方を検討していきます。

具体的な内容

左手利き看護学生の技術習得過程、性的マイノリティに関する看護部門責任者の認識、手術後に生じる主観的症状が生活に与える影響などを対象に、見過ごされやすい困難を明らかにします。

information



研究テーマ

血液透析患者に対する運動支援

キーワード：血液透析、腎臓リハビリテーション、
身体活動量

領域・氏名

[看護（成人看護学）助教 / 外村美紀子](#)

概要

慢性腎不全により血液透析をしている方を対象に看護師主導で透析中の運動療法を実施し、身体的・心理的效果についての研究に取り組んでいます。

具体的な内容

腎臓リハビリテーションとは運動、食事、薬物などの包括的なサポートをするプログラムです。慢性腎不全による血液透析患者は年々増加しており、患者の高齢化も深刻な問題となっています。血液透析療法が運動障害、栄養障害、生活の質の低下、死亡の危険因子となっていることが明らかとなっています。透析患者はサルコペニア有病率も高く、予防には適切な栄養摂取と運動の継続が必要です。

近年、腎臓リハビリテーションの中でも血液透析中の運動療法への取り組みが推奨されています。宮崎県内のほとんどの維持透析クリニックには理学療法士がいません。看護師による運動指導でも安全に運動を継続し、効果をもたらすにはどうすればよいか日々研究しています。

information

CKD関連において運動療法や身体活動量についての研究を深めていきたいと思っております。
ご協力いただける方の連絡お待ちしております。



研究テーマ

がん看護におけるケアリングの研究

キーワード：がん看護のケアリング、ケアリング教育

領域・氏名

[看護（老年看護学）教授](#) / [重久加代子](#)

概要

質の高いがん看護を提供するためには、ケアリング能力を高め、がん看護のケアリングを実践する必要があります。そのため、がん看護特有のケアリングや、ケアリングの効果について研究すると共に、がん看護のケアリング教育に取り組んでいます。

具体的な内容

- ケアリングの実践を促進するために、「ケアリング行動質問紙」を作成し、ケアリング行動の実践と看護実践力、看護への姿勢、自己充実的達成動機が関連していることを明らかにしました。
- がんセンターに入院しているがん患者を対象に、がん患者の生き方（能動的実践的態度）に影響するケアリングとその効果の大きさを明らかにしました。
- がん看護専門看護師やがんサバイバーを対象に、質的研究、量的研究により、がん看護に特有なケアリングを抽出し、がん看護特有のケアリングを基盤とするケアリングの構造を導きました。次に、これらの研究成果を用いて、「寺本の著書『看護のなかの死』で実践された終末期がん看護のケアリング」を明らかにしました。
- 緩和ケア病棟で終末期がん看護のケアリング教育を行い、その成果を明らかにする研究や、がん看護のケアリング実践自己評価尺度の開発を行っています。今後は、ケアリング能力を高めるための看護師の教育に取り組んでいきたいと考えています。

Information

ケアリング、エンドオブライフケア、終末期看護、高齢者の看護に関するテーマでの出前講義が可能です。

高齢者の睡眠および生活習慣に関する研究

【キーワード：高齢者、睡眠、生活習慣】

領域・氏名

[看護（老年看護学）准教授／ 益満智美](#)

概要

高齢者の睡眠や日常の生活習慣が、血管の健康や心の状態にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的としています。地域在住高齢者を対象に睡眠時間、入浴、ICT利用などと健康指標との関連から健康寿命の延伸に役立つ知見を提供します。

具体的な内容

地域在住高齢者を対象に、睡眠時間と動脈硬化の指標であるCAVIとの関連を検討し、8時間以上の長時間睡眠が動脈硬化と関連があることを明らかにしました。

また、新型コロナウイルス感染症流行下における高齢者の抑うつ状態の変化と生活背景との関連について検討し、社会環境の変化が心身の健康に影響を及ぼすことを明らかにしました。

さらに、地域在住高齢者において、情報通信機器（ICT）の利用時間と睡眠との関連を分析し、1時間以上のICT利用が睡眠時間の短縮と関連することを明らかにしています。

今後は、睡眠や生活習慣の改善につながる健康支援や予防的取り組みへの応用を目指します。

information

高齢者の睡眠改善、生活習慣の見直しをテーマとした出前講義や共同研究、地域連携が可能です。



研究テーマ

精神障害をもつ人の共同意思決定に関する研究

キーワード：精神障害、共同意思決定

領域・氏名

[看護（老年看護学）助教 / 福添純子](#)

概要

医療の現場では、治療やケアの選択肢が拡大したことによって、難しい意思決定場面に直面する機会が増えています。そのため、主体的な意思決定が困難となる個人・環境的要因の多い、精神障害をもつ人の意思決定を支える支援として、共同意思決定の研究に取り組んでいます。

具体的な内容

精神医療では、症状や障害が続いていたとしても充実した人生を生きていく、パーソナル・リカバリーが重視され、精神保健福祉施策の改革が進められています。長期入院患者の増加や再入院率の高さが報告されています。地域移行期の精神障害をもつ人に対する、患者と医療者が共同で最善の決定を下すための、対話による合意形成のプロセスである共同意思決定の実践内容は、患者が主体的に意思決定できる力を強めるプロセスを踏みながら進み、地域移行や地域生活定着を含めた重要なパーソナル・リカバリー支援であることが明らかとなりました。今後は、年々増加する認知機能に障害をもつ高齢者の、その人らしさを尊重する意思決定支援についても、研究を進めていきたいと思っています。

information

リエゾン精神看護専門看護師として、地域住民、様々な職種の方々へのメンタルヘルスの支援活動を行いたいと考えています。

1. 看護学生のタッチケア(触れるケア)に関する研究 2. 看護学生の異文化感受性に関する研究

キーワード：1. 看護学生、タッチケア、看護教育
2. 看護学生、異文化感受性、国際交流

領域・氏名

[看護（老年看護学）助教 / \[丸山加菜\]\(#\)](#)

概要

1. 老年看護学領域では、認知症患者や脳血管疾患を持つ高齢者など非言語的なコミュニケーションや不安感・ストレスの軽減が必要となる対象へのケアとしてタッチケア（触れるケア）の技術演習を実施し、講義や実習での教育効果を研究しています。
2. 在留・訪日外国人の増加に伴い、文化・宗教など多様な背景をもつ対象をケアするために異文化感受性を高める必要があり、国際交流を通じた教育効果についての研究に取り組んでいます。

具体的な内容

1. 老年看護学領域の講義・演習のタッチケア（触れるケア）の体験により、どのような効果や学びがあったのか、また、その後の臨地実習において学習内容がどのように看護実践に活用されているのか、教育効果について研究に取り組んでいます。そして、より実践力を高めるための老年看護学教育における指導方法を検討しています。
2. オンライン国際交流や対面での交流による教育効果について研究に取り組んでいます。交流により、チャレンジ精神の出現や学習意欲の向上といったポジティブな心理的变化がみられています。異文化感受性が高まり看護観がより深まるよう、効果的な国際交流の在り方について検討していきたいと考えています。

information

今後は、高齢者施設におけるタッチケア（触れるケア）や外国人労働者に関する研究についても取り組んでいきたいと考えています。

感染看護における教育方法に関する研究

キーワード：感染看護、コンピテンシー、教育方法

領域・氏名

[看護（看護統合）准教授／ \[勝野絵梨奈\]\(#\)](#)

概要

感染看護の実践において求められる能力や資質を明らかにすることを通し、それらを育成するために効果的な教授・学習方法の開発や評価指標の作成へ取り組むことで、学士課程における感染看護に関する看護実践能力の向上に寄与していきたいと考えています。

具体的な内容

医療関連感染の発生・拡大予防には、全ての医療従事者の確実な感染予防対策が不可欠となります。このことは、臨地実習で直接患者と関わる看護学生においても同様で、学生が感染症から自らを守り、自らが感染源となることを防ぐためにも、感染予防の基本原則をふまえた教育の徹底を図ることは、看護基礎教育においても重要であるといえます。そこで現在、感染看護に関する学生の看護実践能力の向上を目指すため、学士課程における感染看護に関するコンピテンシーを抽出することを目的とした研究（文部科学省科学研究費 若手研究：19K19537）に取り組んでいます。

Information

これまで、医療施設の感染管理に貢献できるリーダー的人材の育成を目的とした体験型研修プログラムを開発・実践してきました。感染対策の基本となる標準予防策に関するテーマでの出前講義は可能です。



研究テーマ

新興感染症の危機管理に対応する 地域の看護職人材育成プログラムの開発

キーワード：新興感染症、看護職、人材育成

領域・氏名

[看護（看護統合）講師 / 武田千穂](#)

概要

新興感染症発生時の危機管理に対応できる看護職人材の育成を目的として、感染管理認定看護師等の高度実践能力を活用した看護職人材育成教育プログラムの開発を目指しています。

具体的な内容

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、国内において歴史上初めてとなる緊急事態宣言の発令に至った感染症であり、医療提供体制のみならず地域における感染管理体制の脆弱性や専門人材の不足といった課題を顕在化させました。特に、感染管理認定看護師や、特定行為研修修了看護師を含む高度実践看護職の活用は、感染拡大時の迅速な対応や医療機関間・地域施設間の連携強化において重要な要素であると考えています。そこで、新興感染症発生時の危機管理に対応できる看護職人材の育成を目的とした教育プログラムの開発とともに、感染管理認定看護師や特定行為研修修了看護師等の高度実践能力を活用した人材育成教育プログラムの開発を目指した研究に取り組んでいます。

Information

医療施設において感染管理を推進できる看護職のリーダー育成を目的に、県内の医療施設において感染管理を担う看護職を対象とした研修会を企画し、感染管理教育プログラムを開発・実践しています。



研究テーマ

育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムの開発

キーワード：月経前症候群、育児期、尺度開発、健康教育

領域・氏名

[別科助産専攻](#) 教授 / [濱寄真由美](#)

概要

本研究の目的は、児童虐待の早期発見・早期予防に育児中の母親の月経前症候群の症状軽減を目的として開発した「育児期の月経前症候群尺度」が、月経前症候群の診断（第1スクリーニング）と母親のセルフケア（看護介入）になっているか検討し、月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムを開発する研究です。

具体的な内容

これまで、0歳から6歳児を育児中の母親を対象とし、育児中の月経前症候群（以下PMSと略す）のある母親が、月経前に子どもとパートナーに及ぼす影響を測定する「月経周期に伴う育児感情尺度の開発と有効性の評価」を研究してきました。

（科研費：23593330, 15K11678, 19K11042）

具体的には、0歳児～6歳児の母親を対象に、「育児期の月経前症候群尺度」活用しPMSの診断を実施しています。次に、PMSと診断した母親の精神的健康と身体的健康を目的とした健康教育（ストレス対策・貧血予防の食事指導・冷え対策・運動療法）を実施し看護介入を行います。最後にPMSのある母親のメンタルヘルスプログラムの開発をすることです。

Information

本研究は、新潟県立看護大学、国際医療福祉大学と九州看護福祉大学の共同研究です。また、月経前に、イライラする女性の「食事療法」、「運動療法」、「ストレスマネジメント」、「冷え対策」の健康教育・出前講義が可能です。



研究テーマ

妊産婦の不眠に対する認知行動療法（dCBT-I）の介入と効果

キーワード： 睡眠、妊産婦、不眠に対する認知行動療法

領域・氏名

別科助産専攻 講師 / 蚊口理恵

概要

妊産婦さんを対象に、不眠に対する認知行動療法を行い、その後の睡眠と不安、疲労等への改善効果を明らかにする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

妊娠中から産後は、睡眠が十分にとれなくなったり、疲労や不安が出やすくなったりします。不眠に対する認知行動療法（以下dCBT-I）は睡眠改善の効果が認められていますが、妊娠中や産後の睡眠問題に対してdCBT-Iを実施した報告はほとんどありません。そこで、妊婦さんや出産を終えた女性に対して、dCBT-Iを行い、睡眠状態の改善や効果、不安や疲労に関する状況を明らかにする研究に取り組んでいます。本研究で得られた結果は、今後、妊産褥婦さんへの睡眠支援に役立てることができると考えています。

information

睡眠を含めたよりよい生活行動について、一緒に考えていけたらと思っています。

高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究

キーワード：高齢初産婦、夫、サポート

領域・氏名

別科助産専攻 講師 / 神園洋子

概要

高齢初産婦の夫に焦点をあて、妻が妊娠中から産後まで夫が父親役割を獲得していく中で必要としているサポートを明確にすることを目的に研究しています。

具体的な内容

これまで、若年母親の育児の支援に焦点をあててきました。近年は、女性の高学歴化、社会進出により晩産化が進んでいます。高齢初産婦のサポートは、実母、夫であるがその実母も高齢化しておりサポートができない、夫も父親役割獲得中であり、どのようにサポートしていいかわからない状況です。夫の産後うつも発症すると報告されています。高齢初産婦をささえるにはまず、夫が必要としているサポートを明確にする必要があると考え研究に取り組んでいこうと考えております。

Information

小学4年生とその保護者、中学生に対して、「命について」、「思春期教室」、「看護職の仕事」について出前講座を行いました。このテーマでの出前講座は可能です。



研究テーマ

医療施設における「自然な経過」を支える 助産師の意思決定プロセス

キーワード：分娩、助産師、分娩の集約化、助産学生、
実習

領域・氏名

別科助産専攻 助教 / 佐々木 佳代

概要

少子化、産科医師不足などの影響で分娩の集約化が進んでいます。医療の安全性を担保しつつ、助産師の専門性を発揮して生理的プロセスを支えるための「思考のプロセス」を言語化し、助産学生への教育モデルとして提示たいと考えています。

具体的な内容

病院の中で働く助産師に対して、半構成的面接を実施し、生理的な力を引き出せたと感じた場面での判断根拠は何かを明らかにします。調査結果を学生が医療下での助産師の役割を理解するための教材として活用します。そのうえで医療の安全性と出産の満足度の両方を享受できるケアの体制構築に寄与したいと思っています。

information

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2026年度版 研究者索引(五十音順)

| 研究者氏名 | 研究テーマ | ページ |
|---------------|---|-----|
| あ 荒武亜紀 | 先天性心疾患の子どもと家族への支援 | 38 |
| 荒武舞 | 基礎看護教育における標準予防策の教育方法に関する研究 | 20 |
| 壹岐さより | 妊孕性に重点をおいた思春期健康支援 | 34 |
| 池間功一 | 精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究 | 25 |
| 稲田夏希 | 地域コミュニティと連携した看護教育に関する研究 | 28 |
| 井ノ上亜紀 | 基礎看護教育における教材に関する研究 | 21 |
| 岩江荘介 | 研究倫理審査委員会の審査の質向上について(事務局スタッフへの教育など) | 2 |
| 上富史子 | 1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断 2. 計量テキスト分析を用いた実習前の看護学生のアセスメントの特徴 | 43 |
| 及川朋実 | 遺伝性のがんの患者と家族への看護 | 42 |
| 大館真晴 | 日本上代文学作品の文献学的研究 | 6 |
| 大野理恵 | 男女の更年期における健康支援に関する研究 | 35 |
| 小河一敏 | 看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築 | 1 |
| か 甲斐鈴恵 | 健やかな親子を育む子育て支援に関する研究 | 37 |
| 蚊口理恵 | 妊産婦の不眠に対する認知行動療法(dCBT-I)の介入と効果 | 53 |
| 勝野絵梨奈 | 感染看護における教育方法に関する研究 | 50 |
| 加藤沙弥佳 | 看護学生の職業コミットメントに関する研究 | 12 |
| 神菌洋子 | 高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究 | 54 |
| 川北直子 | 多読学習の効果、看護学生と異文化理解 | 4 |
| 川越靖之 | 宮崎の産婦人科医療及び看護の発展を目指す | 8 |
| 川西幸広 | 「見過ごされやすい困難」に光を当てる看護学的実証研究 | 44 |
| 河野朋美 | 知的障害者の受診支援／健康管理支援 | 30 |
| 河野義貴 | 精神疾患に関する早期介入と再発予防 | 24 |
| 川原瑞代 | 地域志向の看護力育成 | 26 |
| 川村道子 | 精神疾患を持つ方への支援に関する研究 | 22 |
| 串間敦郎 | 高齢者の介護予防運動の開発と普及 | 3 |
| 葛島慎吾 | 精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践に関する研究 | 23 |
| 郡ハルミ | 高齢者の転倒予防支援に繋がるフットケア研究 | 17 |
| 五反田奈々 | 地方沿岸部に居住する障害児の平時からの災害支援に関する研究 | 39 |

宮崎県立看護大学 研究シリーズ集 2026年度版 研究者索引(五十音順)

| 研究者氏名 | 研究テーマ | ページ |
|-------|---|-----|
| さ | 坂井謙次 実習指導の自己評価に関する研究 | 18 |
| | 佐々木佳代 医療施設における「自然な経過」を支える助産師の意思決定プロセス | 55 |
| | 重久加代子 がん看護におけるケアリングの研究 | 46 |
| た | 武田千穂 新興感染症の危機管理に対応する地域の看護職人材育成プログラムの開発 | 51 |
| | 田中美智子 健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究 | 9 |
| | 田端佑規 食品由来脂質成分GGAによる健康維持と疾病予防に関する研究 | 10 |
| | 田丸喜代子 産後マイナートラブルについての研究 | 36 |
| | 妻木美香 支援につながりにくい人の発見・関与プロセスー地域における支援のあり方を考えるー | 32 |
| な | 中尾裕之 特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化 ～自治体への支援のために～ | 13 |
| | 長坂 猛 睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力 | 7 |
| | 中角吉伸 要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究 | 27 |
| | 中村千穂子 がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発 | 31 |
| | 野末明希 1. 睡眠と日常生活の質改善プログラムの構築 2. 遺伝性のがんをもつ人とその家族への看護支援 | 11 |
| は | 濱寄真由美 育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムの開発 | 52 |
| | 原口優美 乳幼児期の子どもをもつ母親への子育て支援と援助要請に関する研究 | 40 |
| | 原村幸代 高齢者の運動教室の継続要因 | 19 |
| | 久野暢子 LGBTQ・HIV陽性者への看護支援 | 41 |
| | 福添純子 精神障害をもつ人の共同意思決定に関する研究 | 48 |
| | 邊木園幸 高齢者および障害者入所施設における感染対策に関する研究 | 14 |
| | ヘンスリー ジョール 国際コミュニケーションツールを備えるため | 5 |
| | 外村美紀子 血液透析患者に対する運動支援 | 45 |

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2026年度版 研究者索引(五十音順)

| 研究者氏名 | 研究テーマ | ページ |
|---------------|--|-----|
| ま 益満智美 | 高齢者の睡眠および生活習慣に関する研究 | 47 |
| 丸山加菜 | 1. 看護学生のタッチケア(触れるケア)に関する研究 2. 看護学生の異文化感受性に関する研究 | 49 |
| 宮ゆうこ | 在宅療養者の“その人らしさ”を支える訪問看護に関する研究 | 29 |
| 毛利聖子 | 看護理論の修得過程 / 人権・倫理教育の構築 | 15 |
| 盛田香織 | 一般就労という自立をめざす精神障がい者の方への支援に関する研究 | 33 |
| や 山岡深雪 | 慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援 | 16 |

お問い合わせ

各教員の研究シーズの教員名は大学ホームページ
www.mpu.ac.jp 内の教員紹介（プロフィールページ）
へリンクしています。

そちらにメールアドレスがありますので、お気軽に
お問い合わせください。